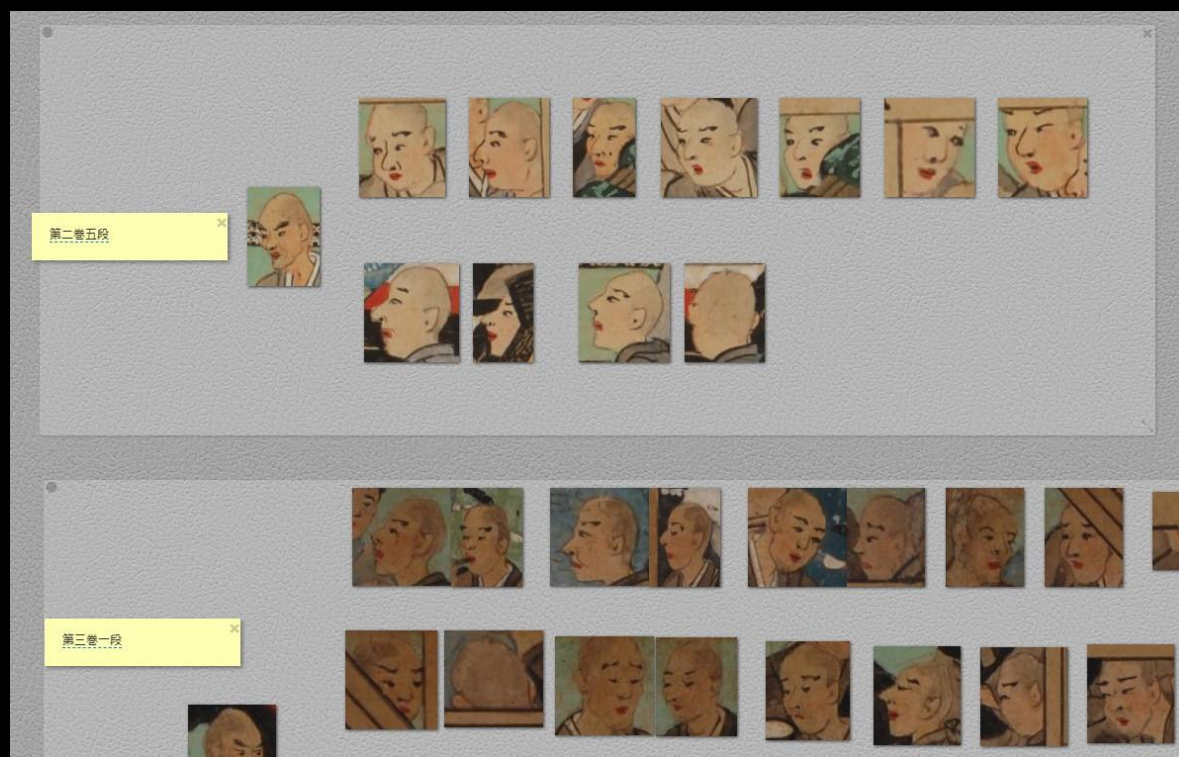


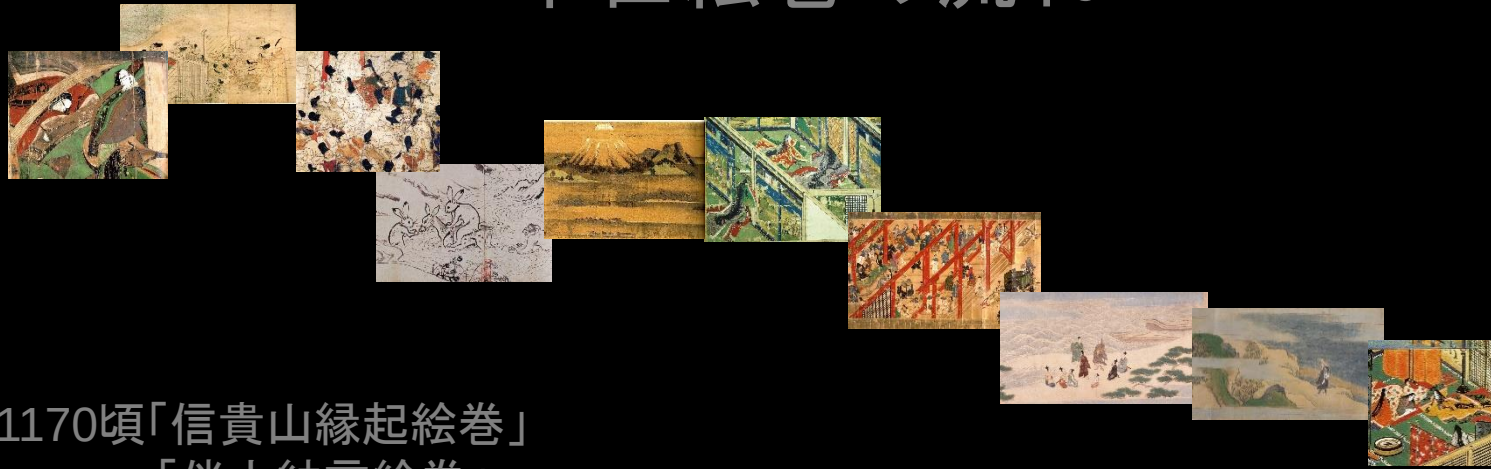
多巻構成の絵巻における絵師の分担に関する検討

「顔コレ」とGM法導入による「遊行上人縁起絵巻」(清浄光寺甲本)の比較を通じて



東京大学大学院人文社会系研究科
高岸 輝

中世絵巻の流れ



1170頃「信貴山縁起絵巻」
「伴大納言絵巻」

1299「一遍聖絵」

1309頃「春日権現験記絵巻」

1414「融通念佛縁起絵巻」清凉寺本

1520「清水寺縁起絵巻」

1532「桑実寺縁起絵巻」

1307頃～「遊行上人縁起絵巻」……………

← 14世紀 →

1100

1200

1300

1400

1500

1600

平安



鎌倉



南北朝



室町



桃山

江戸

14世紀における絵巻の多巻化

- 浄土系高僧伝絵巻の14世紀
- 法然(1133～1212)...百年忌(1311年)の前後には9巻からなる絵巻が成立。これを大幅に増補して48巻とした「法然上人伝絵」(知恩院蔵)は、14世紀前半から半ばにかけて完成。
- 親鸞(1173～1262)...永仁三年(1295)に「本願寺親鸞聖人伝絵」が成立、14世紀半ばにかけて盛んに転写された。
- 一遍(1239～89)...正安元年(1299)に完成した「一遍聖絵」(清浄光寺蔵、12巻)が成立。弟子の聖戒は、絵巻の冒頭と結末部分に登場し、自らが正統な後継者であることを主張。これとは別に一遍・他阿を主人公とする「遊行上人縁起絵巻」10巻が1307年頃に成立。
- 14世紀における絵巻の多巻化
 - 「一遍聖絵」(1299年)12巻...円伊
 - 「遊行上人縁起絵巻」諸本(1300年代～多数転写)10巻
 - 「春日権現験記絵巻」(1309年頃)20巻...高階隆兼
 - 「玄奘三蔵絵」(1310年代)12巻...高階隆兼

14世紀絵巻の制作と工房

- 『賀茂社嘉元三年遷宮記』(1305年)
 - ・右近将監隆兼
 - ・左近将監のぶたか(信隆か)
 - ・左近将監たか氏(隆氏か)
 - ・木工助久たか(久隆か)
- 高階隆兼の工房と所属絵師
 - 「春日権現験記絵巻」「玄奘三蔵絵」などを描く
 - 隆兼(～1305～30～)・信隆・隆氏・久隆・(隆継)

南北朝絵巻における新旧様式の混淆

宮次男氏による概観

宮次男「中世絵巻の展望」(『MUSEUM』284、1974年)

南北朝絵巻→14世紀後半は絵巻の変革期(変革期＝動乱期)

(一)伝統様式を温存する保守的な表現を示す作品

「本願寺聖人伝絵(康永本)」「同(弘願本)」「慕帰絵」「弘法大師行状絵」...

(二)伝統様式に依存しながら、そこからの脱皮を志向するもの

「後三年合戦絵巻」「絵師草紙」「長谷雄草紙絵巻」

(三)従来かえりみられなかった庶民感情に立脚した様式

「遊行縁起(遠山記念館)」「融通念仏縁起絵巻(知恩院本)」「秋夜長物語絵巻」「玉垂宮縁起(掛幅)」

・(三)に分類される「下手っぽい作品は、室町時代に入ってからという先入観があって、絵画史的に無視しがちであるが、それは訂正しなければならない。南北朝の後半、十四世紀の末期には、ぼつぼつあらわれだす新様式とみるべきである。」と指摘する。

「遊行上人縁起絵巻」とは

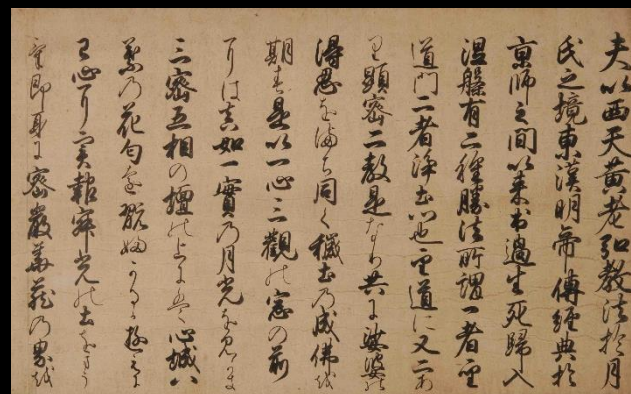
- 他阿真教(1237～1319)…嘉元元年(1303)から徳治二年(1307)にかけて原本が成立(他阿の存命中)。紙本十巻からなり、前半四巻で一遍の生涯を要約し、後半六巻に真教の行実を展開。「遊行上人縁起絵巻」諸本は、「一遍聖絵」という大作の陰に隠れ、少なくとも美術史の視点からは十分な検証が行われてこなかった。
- 詞書内容や絵画の構成において諸本の間で異同が比較的少ない。「遊行上人縁起絵巻」諸本は、数十年の範疇と密接な人間関係の中で、集中的に転写が進められた可能性。

「遊行上人縁起絵巻」諸本の詞書書風

・津田徹英氏の書風分析

津田徹英「詞書の筆跡からみた金蓮寺本『遊行上人縁起絵』の位相」(『美術研究』423、2018年)

- ①金蓮寺本...第一卷(六条有光〈1310～58以降〉)、第二卷(尊円入道親王〈1298～1356〉)、第四・八・九卷・奥書(三条公忠〈1324～83〉)
- ②金蓮寺本別本...第八卷(①金蓮寺本第十卷上と同筆)
- ③金光寺本...第六卷(①金蓮寺本第十卷上と同筆)、第九卷(①金蓮寺本第十卷下と同筆)
- ④清浄光寺甲本...全十卷(①金蓮寺本第十卷下と同筆)
- ⑤常称寺本...第五卷(①金蓮寺本第十卷下と同筆)
- ⑥金台寺本...第二卷(①金蓮寺本第十卷下と同筆)



・つまり、「遊行上人縁起絵巻」諸本は、だいたい十四世紀半ばから後半(南北朝時代)の書風。

①清浄光寺甲本冒頭詞書(清浄光寺(遊行寺)蔵)

夫以西天黃老弘教法於月
氏之境東漢明帝傳經典於
京師之間以來未嘗過生死歸入
涅槃有二種勝法所謂一者聖
道門二者淨土也聖道に又二あり
顯密二教是なり共ニ娑婆に
得忍を海に同く穢土に成佛成
期も是ハ一心二觀に意の前
りは去如一實の月光を光るま
ニ密五相の檀にともる心城ハ
衆の花句を散めりて好む
己心りて實報寂光にともる
實即身ハ密嚴華嚴の界域
望む教の本意なりといふも



清浄光寺甲本冒頭 絵(清浄光寺(遊行寺)蔵)

「遊行上人縁起絵巻」諸本の画風

・「遊行上人縁起絵巻」諸本の制作年代に関する宮次男氏の説
『新修日本絵巻物全集』23(角川書店、1989年)

- ①金蓮寺本...室町後期
- ②金蓮寺本別本...南北朝ないし室町初期の頃
- ③金光寺本...十四世紀、鎌倉時代末期
- ④清浄光寺甲本...江戸初期頃(「室町初期のスタイルから江戸初期頃までのスタイルまであって、製作年代を推定すること極めて困難」と述べる)
- ⑤常称寺本...南北朝を降らぬもの
- ⑥金台寺本...原本製作(1303～07年頃)後、あまり年代を過ぎぬころ

『角川絵巻物総覧』(角川書店、1995年)

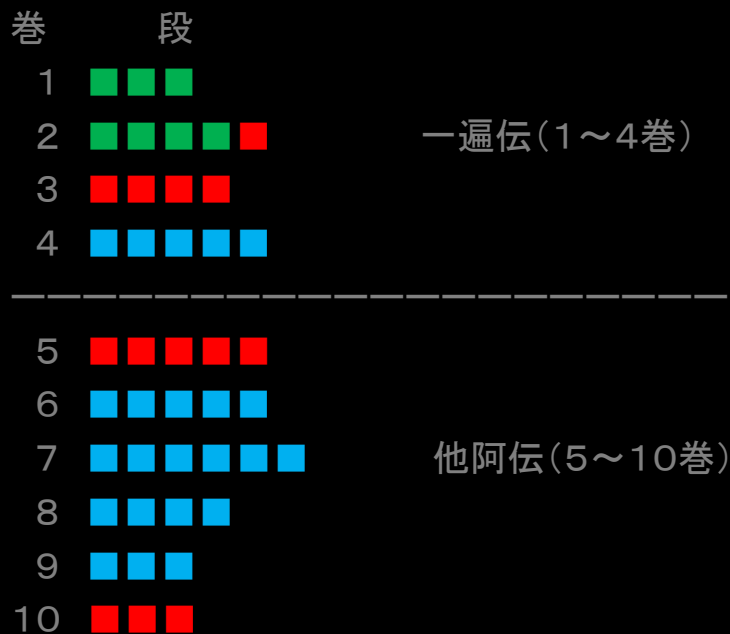
- ①金蓮寺本...室町後期
- ②金蓮寺本別本...南北朝末期ないし室町初期のころ
- ③金光寺本...原本制作(1303～07年頃)後、間もないころ
- ④清浄光寺甲本...室町初期から安土桃山時代ごろまでの幅
- ⑤常称寺本...十四世紀、南北朝を降らぬころ
- ⑥金台寺本...原本制作(1303～07年頃)からあまり降らないころ

→再検討

「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本の三つの画風

・岩橋春樹氏の三分類

岩橋春樹「『遊行上人縁起絵巻』—清浄光寺本について—」(『仏教芸術』185、1989年)



(一類) 彩色、描線ともに標準的な類(第一巻、第二巻第一～四段)

(二類) 濃彩、装飾的な類(第二巻第五段、第三巻、第五巻、第十巻)

(三類) 淡彩による類(第四巻、第六～九巻)

「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本の画風

・岩橋春樹氏の三分類

岩橋春樹「『遊行上人縁起絵巻』—清浄光寺本について—」(『仏教芸術』185、1989年)

- (一類) 彩色、描線ともに標準的な類(第一巻、第二巻第一～四段)
- (二類) 濃彩、装飾的な類(第二巻第五段、第三巻、第五巻、第十巻)
- (三類) 淡彩による類(第四巻、第六～九巻)

- ・一見したときの画風の印象として、(一類)は南北朝から室町前期、(二類)は室町後期とし、(三類)は近世的感覚があるが、同時代の成立。
- ・祖本の古典性を示す(一類)と、桃山時代につながる装飾性を示す(二類)の性格が混在する時期、すなわち、15世紀後半から16世紀にかかる室町時代後期に描かれたものと推定。

→再検討

「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本の画風

高岸輝『中世やまと絵史論』(吉川弘文館、2020年)

- ・(一類)の再検討
 - ・十四世紀初頭に成立した原本の画趣を色濃くとどめ、これを再現しようとする意欲が強い。



清浄光寺甲本 第一巻第二段部分(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清浄光寺甲本(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清浄光寺甲本(清浄光寺(遊行寺)蔵)

同年七月乃以駿河國井田



清浄光寺甲本(清浄光寺(遊行寺)蔵)

「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本の画風

- (二類)の再検討
 - 明確さがさらに際立つ。
 - 一見すると、近世絵画を思わせる装飾性に目を奪われるが、人物や景観の描写からは(一類)と共通する基盤がある。



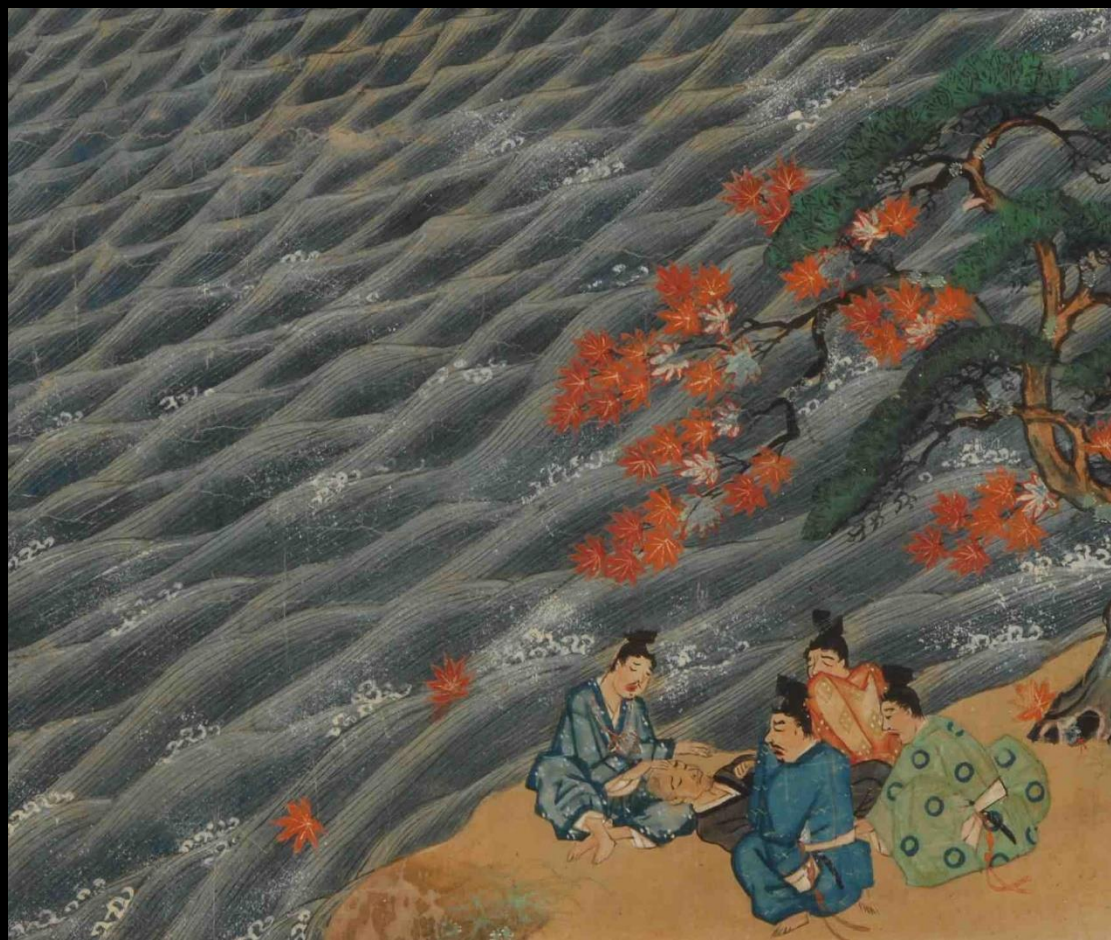
清浄光寺甲本 第五卷第一段部分(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清浄光寺甲本 第五卷第一段部分(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清浄光寺甲本(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清浄光寺甲本 第二卷第四段部分(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清浄光寺甲本 第五卷第二段部分(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清浄光寺甲本(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清淨光寺甲本 第十卷第一段部分(清淨光寺(遊行寺)藏)

「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本の画風

- ・(三類)の再検討

- ・人物の顔貌は(一類)に似るが、衣は淡い彩色でコントラストが弱く、文様も目立たない。



清浄光寺甲本 第四巻第五段部分(清浄光寺(遊行寺)蔵)



清淨光寺甲本 第四卷第五段部分(清淨光寺(遊行寺)藏)



清浄光寺甲本 第四卷第五段部分(清浄光寺(遊行寺)蔵)

(一類)



(二類)



(三類)



清浄光寺甲本(清浄光寺(遊行寺)蔵)

「遊行上人縁起絵巻」清浄光寺甲本の画風

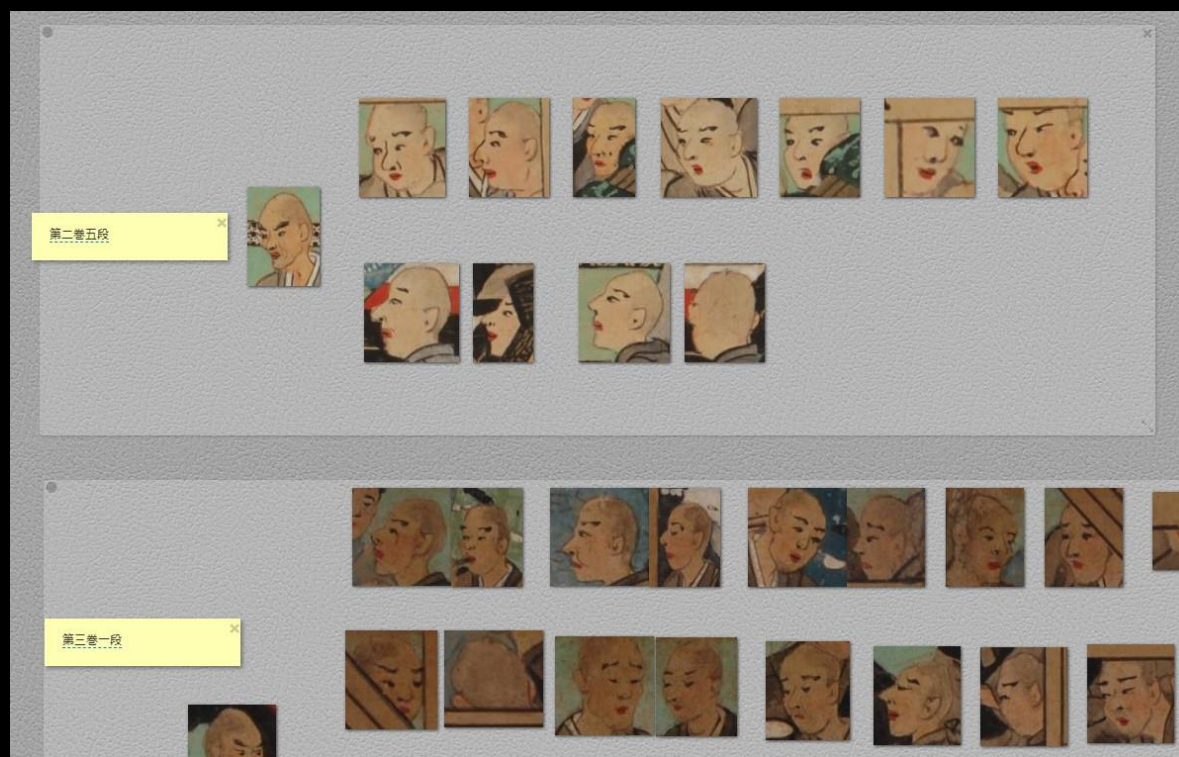
- ・清浄光寺甲本の様式年代
 - ・(一類)には十四世紀初頭を再現し回帰する指向。
 - ・(二類)には対象を明確化・意匠化する指向。
 - ・(三類)には原本をやや簡略に転写する傾向。
-
- ・すべてに共通するのは、14世紀初頭の正統やまと絵に対する強い意識。
 - ・これをいかに解釈するかという点において三者三様の方向を提示。
 - ・(一類)(三類)は(一)「伝統様式を温存する保守的な表現を示す作品」。
 - ・(二類)は(三)「従来かえりみられなかった庶民感情に立脚した様式」。

顔コレとGM法の可能性

- (一類)(二類)(三類)の工房どうしの細部比較→「工房間比較」
顔貌、樹木、岩や土坡、水景、建築物
- (一類)(二類)(三類)の工房のなかでの細部比較→「工房内比較」
絵師の分担(主要な部分⇔添景)
- 「工房間比較」の可能性
「法然上人伝絵」(知恩院蔵)48巻→島田修二郎氏、小松茂美氏の研究
- 「工房内比較」の可能性
「一遍聖絵」→円伊工房
「春日権現験記絵巻」→高階隆兼工房
「玄奘三蔵絵」→高階隆兼工房(1～6巻、7～12巻)
「慕帰絵」→藤原隆章・隆昌工房
- 絹本絵巻の分析
「一遍聖絵」「春日権現験記絵巻」
絹本独特の絵画精細な表現、画絹の織成密度、等倍比較

多巻構成の絵巻における絵師の分担に関する検討

「顔コレ」とGM法導入による「遊行上人縁起絵巻」(清浄光寺甲本)の比較を通じて



東京大学大学院人文社会系研究科
高岸 輝